

令和8年度 第3回 逢妻地域会議 会議録

■日 時 令和8年7月15日（水） 午後6時30分～7時30分

■場 所 逢妻交流館 1階 多目的ホール

■出席者 <委 員> 加納 勝彦 都築 幸雄 加藤 政幸
新屋 康裕 杉浦 正司 丹羽 孝夫
天野 正男 成瀬 鋼二 西 澄弘
矢野 貴之 瀧 豊子 千葉 洋
村上 正義 清水 延哲 鈴木 由布子
岡部 千治
<交流館> 尾崎 敦美（館長）
<事務局> 塚田 征弘（地域交流課副課長） 前田 浩貴（地域交流課担当長）
山本 悟（地域交流課主査） 深見 洸成（地域交流課書記）

- 次 第
- 1 会長あいさつ
 - 2 事業化に向けた検討（グループワーク）

■議 事（要約）

2 事業化に向けた検討

- ・3グループに分かれ、提言内容の事業化に向けた検討を行った。
- ・グループワーク後に各グループから発表を行い、検討内容の共有を図った。

<Aグループ> 家具固定・備蓄の啓発チラシの素案の確認

- ・啓発チラシの仕様
 - ・A3 両面印刷とし、掲載内容は片面を家具固定、片面を備蓄とする。
 - ・応募のあったポスターの中から、掲載内容に沿った内容のポスターを複数枚選定してチラシに掲載する。
 - ・文字を減らしてイラストで伝わる内容とする。また、多言語併記は行わず、市ホームページの多言語版防災パンフレット等のリンクを二次元コードで掲載する。
- ・素案をもとに事業者デザイン委託を行い、地域会議で校正を行うこととする。
- ・チラシとマグネットは別に作成できるとよい。マグネットには標語などを印字することで、啓発につながる。

<Bグループ> 防災士に期待する役割の検討

【課題】

- ・各自治区には自主防災組織があるが、自治区ごとで活動が異なる。
- ・自主防災組織を有効に活用していくためには、防災活動の中心となる防災士が必要。

【短期的な役割】

- ・自主防災会の役員となり、組織の中心として組織体制や活動の見直し及び活性化を担う。

【中期的な役割】

- ・逢妻地区内の各自主防災会間の協力体制を構築し、活動の連携や情報共有を行うことで、逢妻地区全体の防災活動の活性化を図る。

<Cグループ> 備蓄品チェックリストに載せる項目の精査

- ・掲載は4項目（水、食料、トイレ（水無しトイレ）、モバイルバッテリー）に絞る。
- ・その他は参考情報として掲載する。
- ・被災時のストレス軽減のため、参考情報に「おやつ」も追加するとよい。
- ・裏面のサブタイトルは「行政支援が来るまでの3日分備えておくもの」。

<A～Cグループ共通> 防災イベントの実施方法や時期についての検討

- ・実施方法：逢妻交流館のふれあい祭りとの合同開催
- ・実施時期：令和9年度
- ・内容案：小清水小学校の体育館を使用して体験型のイベントとして実施する。
（避難所設営、段ボールベッドの組立て、給水車からの給水体験等。）
防災専門のNPO団体に、防災知識を分かりやすく学べる実践的な企画の実施を依頼する。
被災経験のある方や、災害ボランティア経験者の体験談を聞く。

（終了）